

大正時代の工芸教育

京都市立陶磁器試験場
附属伝習所の記録

前崎信也 編

A5判・556頁・口絵8頁・上製 定価5,000円＋税

明治二十九年（一九九六）、清水寺の袂、五条坂と東山通りの交わる北西側に京都市立陶磁器試験場が創設された。そこでは京都の代表的産業であった窯業の近代化を目的に、最新の機器が導入され、陶磁器の窯、素材、釉薬、デザインと各種の研究が行われた。明治三十二年（一九九九）に設立された附属伝習所では、主に市内の窯業関係者の子弟に近代的窯業技術を伝授。河井寛次郎、濱田庄司、小森忍らが教鞭をとった伝習所の卒業生には、伊東翠壺、河合榮之助、河村熹太郎、河村崎山、五代清水六兵衛、楠部彌一、近藤悠三、六代高橋道八、八木一舛など、二十世紀を代表する多くの陶芸家があり、そこはまさに近代日本の陶芸教育の中心のひとつだったのである。

京都市陶磁器試験場が近代の窯業や陶芸に与えた影響は極めて大きい。現存資料は少ない。特に若い陶芸家の教育を担った附属伝習所の実態は殆ど知られていなかった。本書掲載の新発見の文書類（朝日焼松林家所蔵）は、朝日焼十三世松林光斎の弟であり附属伝習所で大正五年から八年まで学んだ松林鶴之助の手による。彼の日記は入所式から始まり、日々の伝習所での授業の様子を詳細に知ることができる。美しい絵入りで残る各種の授業ノートからは、大正時代の窯業技術の水準や、現代の製陶技術との違いを詳細に知ることができる。これらの史料の翻刻に、編者による論考とコラム、挿図・写真を付して刊行。〈協力〉一般財団法人京都陶磁器協会

〈収録史料〉

- 『日記（大正五年）』『日記（大正五年）』
- 『製陶法（講師：瀧田岩造、大須賀貞蔵）』
- 『製陶法2（講師：大須賀貞蔵）』
- 『製型講義（講師：三橋清）』
- 『登り窯講義（講師：濱田庄司）』
- 『京都市内の登り窯の調査記録』

前崎信也（まえざきしんや）プロフィール

一九七六年生まれ。龍谷大学文学部卒業、ロンドン大学SOAS修士課程（美術史）修了後、米国クラーク日本芸術研究所勤務、中国留学などを経て、二〇〇八年SOAS博士課程修了。二〇〇九年より立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構ポストドクトラルフェロー。学術博士。編書に、『松林鶴之助 九州地方陶業見学記』（宮帯出版社、二〇一三）、主要論文に、『伝統と科学の狭間で——イギリスでの松林鶴之助の活動を中心に——（近代工芸運動とデザイン史）』思文閣出版、二〇〇八、『工芸研究に求められるイメージ・データベースとは（日本文化研究とイメージ・データベース）』（ナカニシヤ出版、二〇一〇）など、多数がある。

松林鶴之助 九州地方陶業見学記

前崎信也 編

好評発売中

四六判・364頁・口絵6頁・上製 定価4,500円＋税

大正八年松林によってまとめられた九州五県四十余の陶磁業者の調査記録である。有田では香蘭社・深川製磁・辻精磁社・酒井田柿右衛門工場などを、また高取焼・唐津焼・高田焼・大川内焼・三川内焼・薩摩焼などかつて御用窯として栄えた陶家・陶業地の、大正期の経営や登り窯・技術の様子が詳細に描写されている。挿図多数。

注文書

書店（帳合）印		条件	
注文数	冊	担当	様
書名		発行	
大正時代の工芸教育		株式会社 宮帯出版社	
——京都市立陶磁器試験場附属伝習所の記録		京都市上京区真倉町七三九—一	
ISBN978-4-86366-934-5		TEL 〇七五—四四一—七七七七 FAX 〇七五—四三二—八八七七	
C3072 ¥5000E		TEL 〇七五—四四一—七七七七 FAX 〇七五—四三二—八八七七	
定価（本体5000円＋税）		年 月 日	

注文書

書店（帳合）印		条件	
注文数	冊	担当	様
書名		発行	
松林鶴之助 九州地方陶業見学記		株式会社 宮帯出版社	
——京都市立陶磁器試験場附属伝習所の記録		京都市上京区真倉町七三九—一	
ISBN978-4-86366-886-7		TEL 〇七五—四四一—七七七七 FAX 〇七五—四三二—八八七七	
C3072 ¥4500E		TEL 〇七五—四四一—七七七七 FAX 〇七五—四三二—八八七七	
定価（本体4500円＋税）		年 月 日	

●ご注文・お問い合わせは

株式会社 宮帯出版社

〒602-8488 京都市上京区真倉町739-1 www.miyaobi.com
TEL. (075) 441-7747 FAX. (075) 431-8877

書店でご注文ください。